

岩崎 温(いわさき すなお) 現代社会学科 2年

「『やりたい』で繋がる大学生活:オープンキャンパスからプロジェクト演習へ」

1年生に向けて、「やりたいこと」と「やりたくないこと」の両方に、どのように向き合うかという話をしたい。

やりたいことについては、「あなたのやりたいは、全てに繋がる」ことを伝えたい。たとえば、自分の場合は、高校生のころから、大学生になったらオープン・キャンパスで高校生に向けて話をしたいと思っていた。仲間と共にそれを実行したところ、ある教員から「小豆島の高校生に向けて、同じプレゼンをして見ない？」と言われた。小豆島では、このプレゼンの他に、高校生とのワーク（大学のゼミを高校生と一緒に実施）、四海漁業協同組合における大学広報ポスター撮影や、現地の観光地調査を行った。その後、さらに教員から提案があり、400名の学生が集まる大規模授業にて、小豆島での活動報告を行った。そして、現在は、「小豆島 島鱧」のブランディング推進を課題とする「プロジェクト演習」に参加している。自分の小さな第一歩が繋がって、充実した学生生活を過ごしている。

「やりたくないこと」には2種類ある。自分のプラスになる「やりたくないこと」（早起き、掃除、宿題など）と自分のプラスにならない「やりたくないこと」である。最近、自分はあるボランティア団体を辞めた。口ではずっと辞めたいと言っていたけど、実行できなかった。なぜなら、以前の自分は2種類の「やりたくないこと」を混同しており、「やりたくないこと」をやることで、自分にも周囲にもプラスになると思っていたからだ。でも、今は「やりたくないこと」には2種類あることに気がついた。後者の自分のプラスにならない「やりたくないこと」を続けることは、自分を大切にしていないことになる。そのことに気がついたから、上記のボランティア団体を辞めた。自分のプラスにならない「やりたくないこと」は、やる必要はないし、やっちはいけない。そんなことをしなくても、学べるし、成長できる。「やりたくない」に直面したら、どちらの「やりたくない」なのかをよく見極め、自分のことを大切にしてほしい。

1年生には、いろんなことを見て、触れて、自分の「やりたい」を見つけてほしい。小さいなことでいいから、「やりたい」を実行すると、どんどん先に広がっていく。現代社会学部は、「やりたい」を見つけて実行するには最適な場所である。あなたの「やりたい」をやってみてください。

木下 陽(きのした ひなた) 現代社会学科 2年 「大学生と社会をむすぶ:株式会社ゆらちょう唯一の大学生社員」

高校1年生のころ、自分の肩書きは「黒板消し係」だった。消極的だった自分。黒板消し係なら、簡単だし、もし消し忘れても先生が消してくれると思っていた。

でも、今の肩書きは「みんなの夢 AWARD9 学生事務局西日本支部長」である。「みんなの夢 AWARD」とは、多数の有名企業が資金を拠出する、毎年 2000 人以上の人が集まるイベントである。このイベントには、性別、年齢を問わず誰でも参加が可能であり、自分が叶えたい夢を聴衆の前でプレゼンテーションする。そして、優勝者にはその夢を実現するための資金が与えられる。私は、このイベントの開催を支援する学生団体の関西支部長であり、西日本の学生活動を統括している。

さらに、「株式会社ゆらちよう」という、和歌山県の由良町を多様な側面から支援する会社においても、唯一の大学生社員として、給与を受け取って仕事をしている。

なぜ、私がこんなに積極的になれたのか。それは高校時代にある人物と出会ったことがきっかけだった。その人から、「自分が何かをやりたいと思ったとき、その気持ちに蓋をすることは、自分に対してとても可哀想なことをしているんだよ」と言われて目が覚めた。それ以来、自分の気持ちから目を背けず、どんどん実行するようになった。

1 年生のみんなには、「まわりの大人は、あなたに協力してくれる」ということを伝えた。大学の先生は、勉強について質問すれば教えてくれるし、今回のプレゼンについても先生が機会を与えてくれた。大学外の大人も、それまでの自分の経験に基づいて実践的なアドバイスをしてくれるし、必要なら助言を超えたサポートもしてくれる。

だから、学生だからと言って大学の中に留まらず、学外に出て好きなことをすればいい。自分の気持ちを見捨てず、やりたいことをやればいい。周りの大人はきっと助けてくれる。どんどんやってみてください。